

栃木県立美術館 令和6（2024）年度事業等評価

令和8（2026）年3月

1 定量的評価

達成度 A：100%以上 B：100%未満～70%以上 C：70%未満

項目	評価点	目標値 a	達成度	評価	備考
		達成値 b	(b/a) %		
1 調査研究関係	① 研究公開と社会貢献回数	40	82.5%	B	
		33			
2 展覧会関係	② 企画展開催回数	4	100.0%	A	
		4			
	③ 企画展関連イベント回数	20	100.0%	A	
		20			
	④ 常設展展示替回数	4	100.0%	A	
4					
⑤ アートリンク実施回数	2	0.0%	C		
	0				
3 普及教育関係	⑥ アートクルーズ来館学校数	20	35.0%	C	
		7			
	⑦ イベント開催回数	12	116.7%	A	
		14			
	⑧ 県教委・あーとネット等教育関係団体との会議	3	366.7%	A	
		11			
	⑨ 社会体験学習等回数	5	20.0%	C	
1					
⑩ 学芸員実習回数	1	100.0%	A		
	1				
⑪ 社会教育実施回数	4	100.0%	A		
	4				
4 広報関係	⑫ ホームページアクセス件数	500,000	108.9%	A	
		544,270			
	⑬ SNSによる情報提供回数	150	277.3%	A	
416					
5 入館者数関係	⑭ 5カ年間の入館者数	248,000			
	(R5の入館者数)	49,600	106.4%	A	
52,792					
6 様々な主体との連携	⑮ 友の会・ショップとの連絡会議回数	4	100.0%	A	
		4			
	⑯ レストラン企画展関連ランチ提供回数	5	100.0%	A	
5					
7 新たな取組	⑰ 新規に取り組んだ事業数	1	100.0%	A	
		1			

2 定性的調査

達成度 A：91%以上 B：91%未満～70%以上 C：70%未満

評価項目	チェック項目数×3 (a)	達成度	評価	備考
(チェック項目数)	◎×3+○×2+△×1 (b)	(b/a) %		
1 館運営全般 (9)	27	85.2%	B	
	23			
2 調査研究関係 (5)	15	93.3%	A	
	14			
3 収集保存関係 (7)	21	90.5%	B	
	19			
4 展覧会関係 (8)	24	91.7%	A	
	22			
5 普及教育関係 (9)	27	96.3%	A	
	26			
6 施設設備管理 (4)	12	100.0%	A	
	12			
7 中核的機能関係 (6)	18	100.0%	A	
	18			
8 広報関係等 (7)	21	95.2%	A	
	20			
9 様々な主体との連携 (8)	24	75.0%	B	
	18			
10 新たな取組 (4)	12	100.0%	A	
	12			

定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A：達成度 100%以上、B：達成度 100%未満～70%以上、C：達成度 70%未満

定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A：達成度 91%以上、B：達成度 91%未満～70%以上、C：達成度 70%未満

〔◎：十分達成できた（3点）、○：概ね達成できた（2点）、△：達成不十分（1点）〕

3 評価結果一覧

区 分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (17)	13項目	1項目	3項目
定性的評価項目 (10)	7項目	2項目	1項目

4 新たに取り組んだ（改善した）事業等

概 要	○美術館所蔵品目録のオンライン化 ・美術資料のデジタルアーカイブ化を進め、ウェブサイト「とちぎデジタルミュージアム SHUGYOKU」に所蔵品目録をアップロード。
成 果	○美術館所蔵品目録のオンライン化 ・当館所蔵品について、分野、作品名、作者名、画像情報の有無、フリーワード等、様々な切り口で検索し、画像情報のある作品についてはウェブ上で鑑賞できるようになった。

5 自己評価総括

評 価	<p>○定量的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の76%がA評価であり、ほぼ計画通りに事業を実施できたものと評価。 ・「1 調査研究関係」については、学芸員の定数7名に対し、昨年度は2名の欠員が生じたこともあり、目標値を下回る達成値となったため、B評価とした。 ・「2 展覧会関係」のうち、アートリンク実施回数については、連携先他館のスケジュール等の都合により達成値は0件であったため、C評価とした。実施に向けた調整は適宜行っており、今年度4回開催という成果につながっている。 ・「3 普及教育関係」については、学校行事との関連項目で一部C評価となった。アートクルーズ事業は学校・美術館・県管財課の三者の調整を要するため、利用拡大が難しい面もあるが、同事業とは別に、約25校が団体観覧等で来館されている。 <p>○定性的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の70%がA評価であり、大きな問題なく館運営ができたものと評価。 ・「1 館運営全般」については、少人数の不規則勤務体制のため、突発事案が生じた際の速やかな館内連携が難しい状況があり、B評価とした。 ・「3 収集保存関係」については、施設の老朽化や、収蔵作品の修復費用の確保の難しさ等から、B評価とした。 ・「9 様々な主体との連携」については、友の会、レストラン、ショップ、ボランティア等との協力関係は維持できたが、限られた人員・設備での更なる事業展開は難しい状況にあり、B評価とした。
--------	---

課題	<p>○限られた人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数の職員による不規則な勤務体制のため、突発事案対応が困難。 <p>○収集保存環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した機械設備の修繕や収蔵作品の修復に係る費用の確保に苦慮。
対応の方向	<p>○限られた人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有を密にし、柔軟に勤務計画を変更する等により、可能な限り速やかに各種事案に対応していく。 <p>○収集保存環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理経費の弾力的な運用や、助成金活用による修復費用の確保に努めていく。

6 外部評価

意見等	<p>令和6（2024）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼少期から文化芸術に親しめる取組の推進 学校観覧の受入れや子ども向けイベント等を更に推し進め、幼少期から文化芸術に親しめる機会を増やしてほしい。 2 デジタル技術の活用による学校教育との連携強化 デジタルアーカイブを活用した鑑賞教育の充実、オンラインによる美術教員向けの相談支援等、デジタル技術をうまく利用し、学校・美術館双方の労力軽減を図りながら、更に連携を強化してほしい。 3 経営面の課題への対応 美術館の運営コスト上昇は全国的な課題。経営の透明性強化に取り組んでいる他県の事例等を参考に、評議員会等で経営面での議論ができることが望ましい。 4 今後の展覧会のあり方 県立美術館が半世紀かけて築き上げたブランドイメージ（学芸員の調査研究成果を生かした質の高い展示）を大事にしながら、県民の多様なニーズに沿った新たな取組を進めてほしい。 5 社会的包摂を意識した取組 障害のある方や地域で暮らす外国人等、様々な事情を抱える方々が、安心して利用し、交流できる環境づくりにも取り組んでほしい。
-----	--